

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力のお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

肝細胞癌に対するレンバチニブを併用した肝動脈化学塞栓術（TACE）における自動栄養血管検出機能（AFD）の感度の評価

1. 対象となる患者さん

2024 年 1 月～2025 年 12 月の間に当院 IVR センターで選択的肝動脈化学塞栓療法を施行された患者さん。

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 中央放射線部 技師 下田 純平

3. 研究の目的と意義

肝細胞がんに対する肝動脈化学塞栓療法（TACE）において、3D ワークステーションを用いた自動栄養血管検出機能（AFD）は、手技中に得られたデータから栄養血管を自動で教えてくれる有用なシステムです。手技時間の短縮や再現性の確保などのメリットがあります。一方、近年普及してきたレンバチニブを併用した TACE（LEN-TACE）は、TACE による虚血後の血管新生シグナルを阻害し、腫瘍血管を正常化させる強力な相乗効果により、高い奏効率と生存期間の延長をもたらしています。しかし、この抗血管新生作用は、標的となる栄養血管そのものの著しい狭小化や造影効果の低下といった血流動態の変化を引き起こします。このような特殊な体内環境下において AFD が従来通りの高い精度で機能するのは、実臨床において重要な課題ですが、そのような検証を行った報告は、まだ十分ではありません。

そこでこの研究では、撮影された放射線画像を解析することで、レンバチニブが AFD に与える影響を明らかにすることを目的としています。これが明らかになることで、レンバチニブが用いられた TACE においても積極的に AFD が活用され、より安全な手技を行っていくことが期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、レンバチニブが用いられた TACE とそうでない TACE において、それぞれ AFD の栄養血管の検出感度を算出、比較します。

5. 使用する情報

診療情報：診断名・年齢・性別・既往歴、血液検査結果、CT 画像、DSA 画像

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2027 年 12 月 31 日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

この研究は奈良県立医科大学 医の倫理審査委員会の承認を受け研究機関の長の許可を得ています。これらの研究において、ご自身の提供された情報等について問い合わせたい、もしくは利用を拒否したいなどの場合には下記にご連絡ください。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 中央放射線部 技師 下田 純平

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：k109638@naramed-u.ac.jp